

編集後記

21号の第1論文は、熊本北高校での実践報告です。熊本北高校はスーパーサイエンスハイスクール指定校です。第1論文第1筆者寺田昂世は、若い力としなやかさをもってスーパーサイエンス教育に取り組んでいます。寺田らの論文が投稿されてきたとき、編集委員会の中で「これはスマートな論文ですね」「ほんと、スマートだ」という声が飛び交いました。スーパーサイエンスハイスクールとして熊本北高校が掲げる理念と看図アプローチを見事に融合させています。しかも今回は、英語科での地学授業の報告です。授業の中で視聴してもらう動画も英語です。看図アプローチを活用した先進的授業モデルを提案している好論文です。

第2論文は、溝上広樹の実践です。溝上も熊本北高校の教員として「独創性を高める先進的理数教育」に取り組んできました。溝上はこれまでに数多くの看図アプローチ実践を、論文やワークショップの形にして発信してくれています。サイエンスの授業の中に必ず「キャリア教育」の要素も取り入れているのが溝上実践の特徴です。

また溝上は早くから、看図アプローチの授業方法としての有効性に注目してくれていました。さらに、看図アプローチの良さを全国に伝えていく活動にも力を注いでくれています。今回の論文は、看図アプローチの普及に直接つながる内容になっています。溝上の教育・研究活動は、4月から新しいステージに移行していくようです。新しいキャリアステージでも、引き続き看図アプローチの発展に力を貸していただけますようお願いいたします。

石山信幸による第3論文は「萌芽的研究」です。「数学教育に看図アプローチを活用するのは難しい。しかし、数学授業の前に看図アプローチによって『みる力』を育てておけば、数学での『みる力』『考える力』も向上するのではないか。」これが石山の仮説です。石山はこの着想(仮説)を数年にわたって温めてきました。そして今回、この仮説を検証するための予備的実践を行ってみました。得られた結果は「この着想には脈がある」ことを示すものでした。私たちは「新しいもの」が生まれてくる瞬間に立ち会っているのかもしれません。私は、石山の授業を何度か参観させてもらっています。石山は数学授業の名手です。石山の手によって数学教育につながる看図アプローチの新しい姿が、もうすぐ芽吹いてくるものと思います。

石山は「全国看図アプローチ研究会」がまだ「看図作文研究会」だった頃からの研究メンバーです。石山は数学教員であるにもかかわらず「作文」の研究に関心を寄せてもらっていたのです。その理由は「看図」という活動に、数学教育にもつながる「何か」を感じてくれていたことにありました。この「何か」が全国の多くの先生方に伝わるように、わたしも引き続き力を尽くしていきます。

<表紙を読み解く>

この21号から、また新しい10号が始まっていきます。これから、看図アプローチの実践と研究はさらなる「飛翔」を続けていきます。今号掲載論文を執筆していただいた先生の中には、この春に新たな船出を迎える方もいます。この研究誌をとおして看図アプローチの海に新たに船出してこられた方もいます。ずっと「看図」について考えてきて、大きく羽ばたこうとしている方もいます。21号掲載論文を読んでいただいた先生方にも「飛翔」と「船出」が訪れてくれることだと思います。

21号は「高校理数科特集」になりました。執筆者は全員九州の先生方です。このことを記念して、九州の海と空で表紙を飾ってみました。表紙デザインは「全国看図アプローチ研究会」専属アートスタッフの「石田ゆき」です。写真撮影も石田です。熊本港から島原港に向かう船の上で撮影しました。表紙も鑑賞していただければ幸いです。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 21 号

発行年月日 2024 年 3 月 30 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

織田 千賀子

鹿内 信善 *

山下 雅佳実

渡辺 聰

(* 印は編集代表)



発 行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン 石田ゆき